

令和4年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)							
II-1-(4)-④ 総合的な災害 対策の 推進	1	⑥ ⑩ ⑬	浸水対策事業	下水道計 画課	近年、集中的な 豪雨に起因する浸 水被害が増加して いる。 浸水被害を抑制 するため、公共下 水道の整備を進 め、流域全体の浸 水に対する安全度 の向上を図る。	浸水被害の抑制 (累計)	—	目標 1 地区 3 地区	実績 1 地区 3 地区	達成率 100.0 % 100.0 %	重点整 備地区 (9地区) の雨水 整備 (R7年 度)	3,703,503	2,850,000	3,614,663	165,200	順調	重点整備地区の雨水整備に ついて、計画どおり進んでい るため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 雨水整備が予定どおり進 み、浸水被害の抑制に寄与し ていることから、「順調」と 判断。 【課題】 浸水被害の抑制に向け、引 き続き効率的な整備を行う必 要がある。	今後も整備箇所ごとの現場 の状況に応じた最も経済的か つ効率的な方法を検討し、整 備を行っていく。
II-1-(4)-⑤ 公共施 設など の耐震 化の推 進	2	⑥ ⑨ ⑩ ⑬	地震対策事業 (水道施設)	計画課	大規模な地震が 発生した場合にお いても、安全で安 定的な給水を確保 するため水道施設 の耐震化を実施す るもの。	浄水施設耐震化率 配水池耐震施設率	—	目標 浄水 59.2% 配水池 55.7%	実績 浄水 59.2% 配水池 55.7%	達成率 100.0 % 100.0 %	浄水施設耐震 化率 77.5% (R10年 度) 配水池 耐震施 設率 60.1% (R7年 度)	201,153	78,964	67,687	4,610	順調	浄水施設、配水池ともに目 標の耐震化率に達しており、 「順調」と判断。	順調	【評価理由】 中期目標に対して概ね順調 に耐震化が進んでいるため、 「順調」と判断。 【課題】 大規模地震に備え、引き続 き計画的な耐震化を進める必 要がある。	水道施設及び下水道施設に ついて、引き続き、計画どお り耐震化を実施していく。
II-1-(4)-⑤ 公共施 設など の耐震 化の推 進	3	⑥ ⑨ ⑩ ⑬	地震対策事業 (下水道施 設)	施設課	大規模な地震が 発生した場合にお いても、最低限の 下水処理が行える ように下水道施設 の耐震化を実施す るもの。 浄化センターに 近接するポンプ場 や災害拠点病院な どから排水を受け る重要な15ポン プ場の耐震化に取 り組む。	重要な15ポン プ場の耐震化率	—	目標 20.0 % 46.7 %	実績 20.0 % 46.7 %	達成率 100.0 % 100.0 %	重要な 15ポン プ場 の耐 震化 率 73.3% (R7年 度)	285,350	190,000	96,959	10,690	順調	計画通り進捗しているた め、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 中期目標に対して概ね順調 に耐震化が進んでいるため、 「順調」と判断。 【課題】 大規模地震に備え、引き続 き計画的な耐震化を進める必 要がある。	水道施設及び下水道施設に ついて、引き続き、計画どお り耐震化を実施していく。

令和4年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	4	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	上下水道技術 の国際協力	海外事業 課	アジアを中心とした国や地域（カンボジア、ベトナム国ハイフォン市など）への職員派遣や海外からの研修員受入などにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に關する指導を行うことと、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献する。 併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与する。	海外からの研修員 受入人数	—	目標	380 人	380 人	海外の 技術者 の育成 ・ 世界の 水環境 改善に 貢献	349	72,982	27,745	27,030	遅れ	世界各国から研修生を継続的に受入れているが（目標：380人、実績：107人）、コロナ禍に係る渡航制限のため「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限のため、目標を下回ったことから、「遅れ」と判断。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮しながら、今後も国等関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに効率的、効果的な事業実施を図る必要がある。	日明浄化センター（ビジターセンター）などの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受け入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。
III-1-(3)-① 安全で安定しておいしく飲める水道の整備	5	⑥ ⑨ ⑩ ⑬	配水管更新事業	計画課	老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保する。	配水管の効率的・計画的な更新（累計）	—	目標	38.5 km	77 km	185km (R7年度)	4,629,664	5,615,056	5,087,562	296,125	順調	令和4年度目標である配水管更新38.5kmに対し、30.9kmの配水管更新工事を終えており、概ね目標近く更新を進めているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業が予定どおり進んでいるため、「順調」と判断。 【課題】 事故の防止に向け、引き続き計画的な更新を進める必要がある。	第6期更新計画に基づき、計画どおり更新を実施していく。
III-1-(3)-③ 快適で良質な生活環境をつくる下水道の整備	6	⑥ ⑩ ⑬ ⑭	合流式下水道改善事業	下水道計画課	合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水で希釈された未処理下水の一部が川や海に流れ出ることがある。 放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、合流式下水道の改善に努め、良好な水環境をつくる。	良好な水環境の実現（合流改善達成率 R5：100%）	—	目標	84.0 %	93.0 %	合流改善の達成（100%）（R5年度）	1,482,768	1,600,000	1,810,666	121,150	順調	合流改善達成率について目標通り達成（93.0%）したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 対策が目標どおり進み、合流式下水道の改善が進んだため、「順調」と判断。 【課題】 浸水対策と合流改善を併せ、一体的に取り組むなど、効率的な整備を行う必要がある。	今後も整備箇所ごとの現場の状況に応じた最も経済的な方法を検討し、整備を行っていく。

令和4年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度 決算額 （千円）	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度		中期 目標	予算額 （千円）							決算額 （千円）	
VI-3-(3)-④ 下水汚泥などの循環 利用	7	⑨ ⑩ ⑫	下水道資源の有効利用	施設課	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化や、さまざまな資源の有効利用を行う。	下水汚泥の有効利用率	100% (R1年度)	目標 100.0 %	実績 100.0 %	達成率 100.0 %	100.0 %	1,901,267	1,906,447	1,856,017	127,275	順調	成果指標である下水汚泥の有効利用率の目標100%に対し、100%を達成したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業が予定どおり進み、下水汚泥などの循環利用につながっていることから、「順調」と判断。 【課題】 資源化率を維持するため、汚泥燃料化施設の安定稼働を行う必要がある。	引き続き、下水道資源を有効利用していく。
VII-1-(3)-② 上下水道、消防、交通などの分野における国際協力の推進	8	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬	上下水道技術の国際協力	海外事業課	アジアを中心とした国や地域（カンボジア、ベトナム国ハイフォン市など）への職員派遣や海外からの研修員受入などにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献する。 併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与する。	海外からの研修員受入人数	—	目標 380 人	実績 28 人	達成率 7.4 %	380 人	107 人	28.2 %	349	72,982	27,745	27,030	遅れ	世界各国から研修生を継続的に受入れているが（目標：380人、実績：107人）、コロナ禍に係る渡航制限のため、「遅れ」と判断。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮しながら、国際協力事業については、今後も国等関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに効率的、効果的な事業実施を図る必要がある。 海外水ビジネスについては、今後も協議会と連携し、事業に取り組むことで地元経済の活性化を図る必要がある。	国際協力事業については、日明浄化センター（ビジターセンター）などの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受け入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。 海外水ビジネスについては、北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にして、カンボジア、ベトナムなどでビジネス案件を引き続き受注し、目標を大幅に上回った。 以上のことから、「順調」と判断。 国際協力事業については、日明浄化センター（ビジターセンター）などの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受け入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。 海外水ビジネスについては、北九州市海外水ビジネス推進協議会との連携を深めながら、国際戦略拠点を活用し、本市及び市内企業の上下水道に係る技術や製品をアジアを中心としたビジネス対象国に発信するとともに、アジア低炭素化センターと協力しつつ、受注拡大を目指す。

令和4年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性		
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)	決算額 (千円)
9	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑰	海外水ビジネスの推進	海外事業課	上下水道分野などの海外水ビジネスは、今後も人口増加や都市化の進展により市場の拡大が見込まれ、国の成長戦略においても、水分野等のインフラシステム輸出を推進するとされている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。併せて「ウォータープラザ北九州」を活用し、水ビジネスに向けた取組を進める。	市が関与するビジネス案件数	—	目標	6	件	6	件	中期目標	49,131	114,075	82,717	49,870	大変 順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通して築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。 実績として、令和4年度はカンボジアでビジネス案件を12件受注したため、「大変順調」と判断。		
VII-2-(1)-① アジア低炭素化センターを核とした都市インフラビジネスの推進	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑰	海外水ビジネスの推進	海外事業課	上下水道分野などの海外水ビジネスは、今後も人口増加や都市化の進展により市場の拡大が見込まれ、国の成長戦略においても、水分野等のインフラシステム輸出を推進するとされている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。併せて「ウォータープラザ北九州」を活用し、水ビジネスに向けた取組を進める。	市が関与するビジネス案件数	—	目標	6	件	6	件	中期目標	49,131	114,075	82,717	49,870	大変 順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通して築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。 実績として、令和4年度はカンボジアでビジネス案件を12件受注したため、「大変順調」と判断。	【評価理由】 北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にして、カンボジア、ベトナムなどでビジネス案件を引き続き受注し、目標を大幅に上回った。以上のことから、「大変順調」と判断。 【課題】 今後も協議会と連携し、事業に取り組むことで地元経済の活性化を図る必要がある。	北九州市海外水ビジネス推進協議会との連携を深めながら、国際戦略拠点を活用し、本市及び市内企業の上下水道に係る技術や製品をアジアを中心としたビジネス対象国に発信するとともに、アジア低炭素化センターと協力しつつ、受注拡大を目指す。